

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	13-012	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Evaluating Alcoholics Anonymous's effect on drinking in Project MATCH using cross-lagged regression panel analysis. 交差遅延回帰パネルを用いた Project MATCH におけるアルコールリクス・アノニマスの効果の検討		
執筆者		
Magura S, Cleland CM, Tonigan JS.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2013 May;74(3):378-85.		
キーワード		PMID
アルコールリクス・アノニマス、因果関係、アルコール依存		23490566
要 旨		
<p>目的： アルコールリクス・アノニマス（AA）への参加が飲酒や飲酒関連の問題を減少させるかを Project MATCH データを用いて検討する。Project MATCH は“Project Matching Alcoholism Treatments to Client Heterogeneity”の略語で、アルコール依存治療に関する全国データである。</p> <p>方法： 交差遅延偏回帰係数により、パネルデータを構造化平衡モデル化するという方法を採用した。この方法を AA のアウトカム評価分析に用いる最大の利点は、AA への参加と飲酒行動との相互的な因果関係を、有限の因果遅延を特定することで明瞭にモデル化できる点である。</p> <p>結果： 外来患者を用いたサブ抽出群（n=952）の解析結果でみると、AA 参加により、禁酒が促がされ飲酒関連の問題を低減するという仮説を強く支持するものであり、これが因果の逆転による見せかけの結果であるという仮説は支持されなかった。回復期治療のサブ抽出群（n=774）を用いた結果は、それほど明瞭ではなかったがやはり、AA への参加がより良いアウトカムの原因であることを示唆していた。</p> <p>結論： ランダム化比較試験が最も確実に介入とアウトカムとの因果関係を証明する方法ではあるが、実施が容易でないため、AA に関するそのような研究はほとんどない。本研究では Project MATCH の複数データを有効に活用し、AA 参加と飲酒関連アウトカムとの因果関係の科学的根拠を検討した。本研究では統計学的に独自の結果が得られ、主に外来患者のアルコール依存症治療において、AA 参加の有効性を支持する結果が得られた。</p>		